

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立夕陽丘 中学校

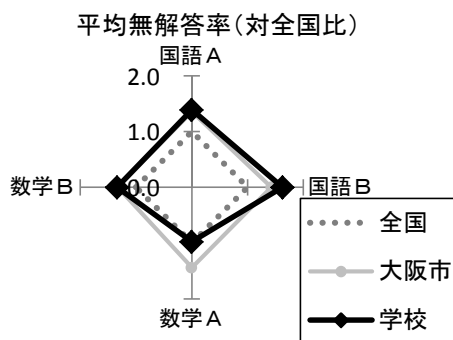
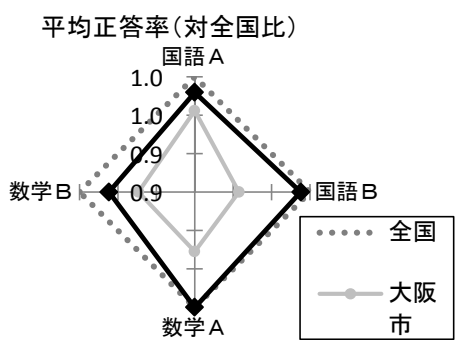
生徒数 163

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	77.8	50.4	67.4	57.5
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4.3	5.7	4.2	14.6
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9



結果の概要

国語については、大阪市の平均は上回っているが、全国平均には届いていない。自己の考えや、他者の意見や気持ちを整理して表現する力をつけていく必要がある。コミュニケーション力をつけるしかけを授業に取り入れる工夫を研究していきたい。

数学については、A問題は全国平均並みではあるが、B問題は全国平均に届いていない。資料(データ)の活用する力をつけていく必要がある。日常生活に数学を見出し、課題を見つけ、数学を活用することで解決する力をつける教材を研究していきたい。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

国語科においては、国語の学習に興味関心をもっている生徒の割合が多い。これは、生徒の興味関心を引き出す授業の工夫を国語科の教員が行っているからである。また、語彙力をつけるため、一つひとつの言葉を大切にする授業展開を行っている。

生徒に、自己表現力をつけることが課題となるが、国語の授業中だけでなく、日常生活のなかで、自分の意見をはっきりと伝え、他者の意見を聞き、尊重させることを指導者が意識して臨んでいきたい。

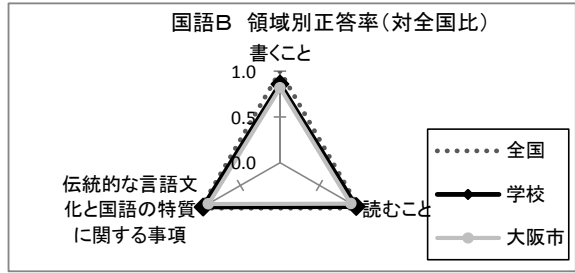
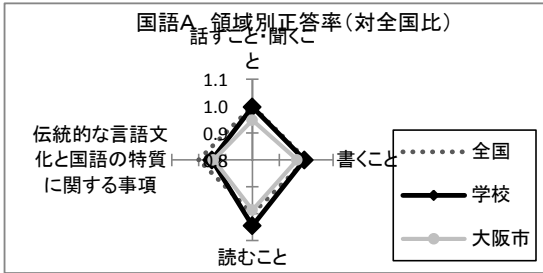
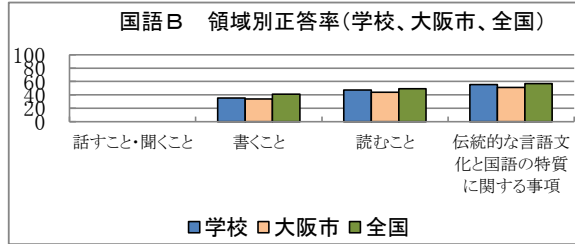
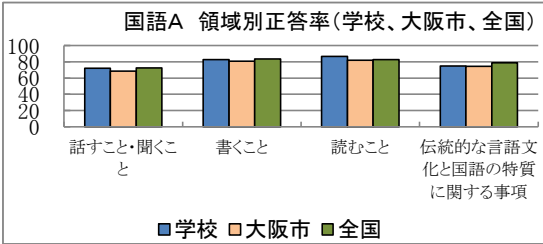
数学科においては、順序だてて考えていく論理的思考を育成する授業の展開を行ってきた。結果、図形の領域に表れている。また、数学の公式を単に使うだけでなく、その意味や根拠を理解して使う姿勢が生徒に身についたといえる。

数学的な応用力をつけることが課題となるが、日常生活において数学を活用する教材を研究していきたい。

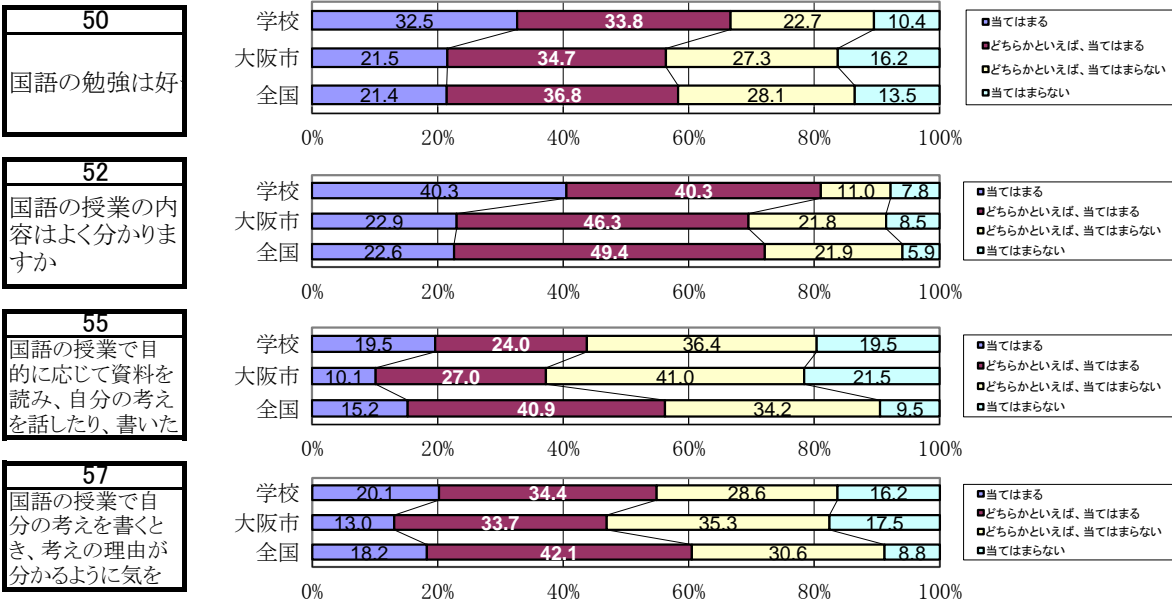
【国語】 「読むこと」という項目の正答率に着目すると、選択肢が用意されたA問題では全国平均を上回るのが、B問題において、何もないところから、人の意見や気持ちをくみ取って自分の表現をしなければならないことを試されると、適切な答えが書けない生徒が多いと言える。つまり、お膳立てが整っている課題では良い成果を挙げられるが、解答をゼロからつくりあげなければならない課題は苦手としている生徒が多い傾向がうかがえる。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	72.1	68.5	72.3
	書くこと	6	82.9	80.6	83.4
	読むこと	5	86.6	81.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	74.8	74.3	78.7

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	35.3	33.6	41.0
	読むこと	8	47.4	44.1	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	55.2	51.3	56.8



国語に関する「生徒質問紙」



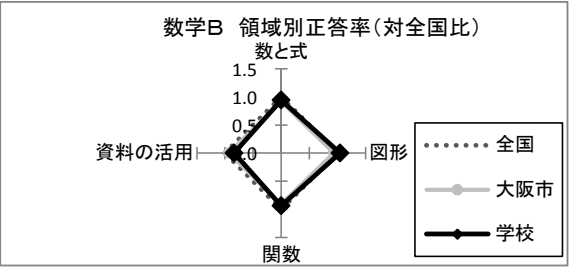
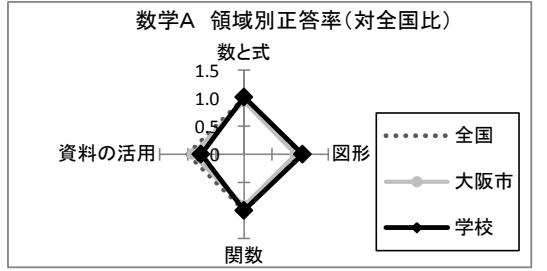
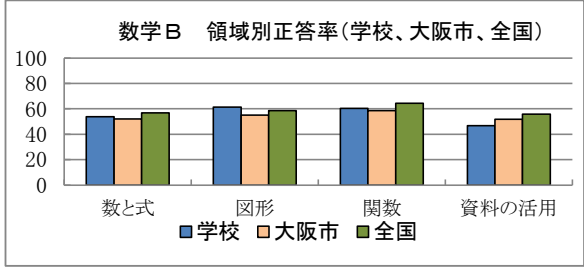
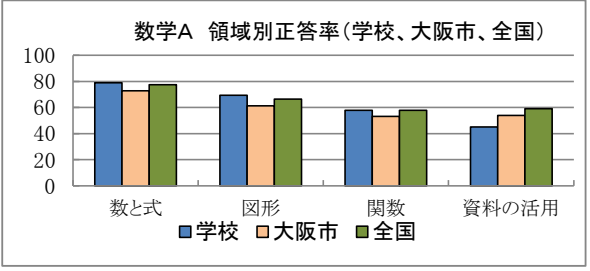
成果と課題
 肯定的な答えが多い項目については、生徒の意見や質問を受けとめて、できるだけ間を置かずには助言したり答えたりすることに心がけたことによる成果であると考えられる。しかし、否定的な答えが二～三割あることを指導者は心におかねばならない。また、自己表現については、全国平均を下回っていることが、指導者にとって大きな課題である。自分の意見をはっきり表明できる人間形成に必要な素養を、義務教育期間に、生徒の内面に育んでいかなければならない。

今後の取組
 生徒が興味をもって授業に臨めるように、指導者がその進行において、生徒とのやりとりを改善しなければならない。それは、授業中は言うまでもなく、それ以外の場も含めて、良好な人間関係の構築が前提となる。また、自分の意見が発表できる話し合いを中心とする取り組みを増やすことと、さらに、語彙と漢字の基礎学力を身につけるための反復練習も従来どおり、根気よく続けていくことが肝要だと考える。

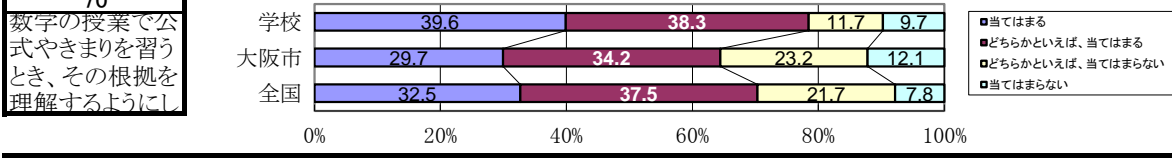
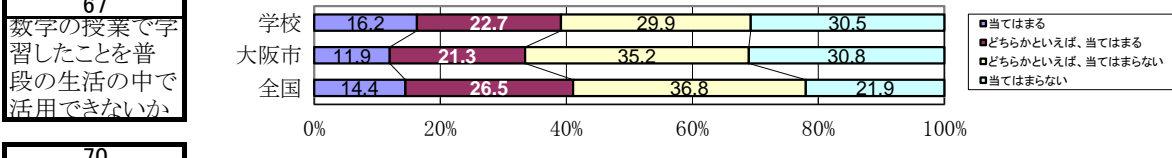
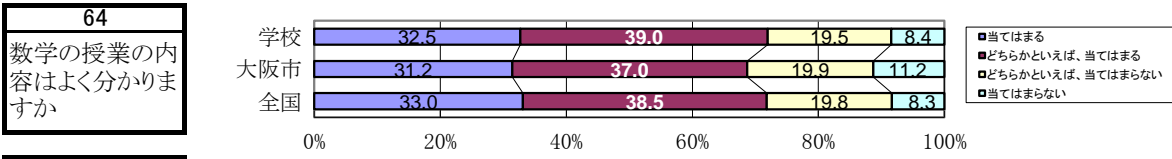
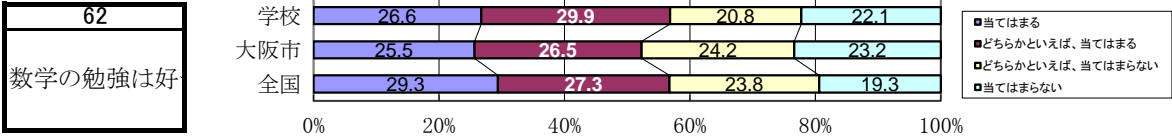
【数学】 **結果の概要**
 A問題に関して、資料の活用以外の領域は全国・大阪市平均を上回った。B問題に関しても資料の活用以外の領域は大阪市平均を上回っている。資料の活用の正答率が低い要因として考えられるのが、この単元を学習する時期が1年生学年末テストの後だったためにテスト範囲に入らなかったこと、学習してから期間が空いたことなどが考えられる。繰り返し復習の時間を設けることで改善につなげることができると考える。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	12	79.0	72.8	77.4
	図形	12	69.4	61.2	66.4
	関数	8	58.0	53.2	58.0
	資料の活用	4	45.1	54.0	59.1

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	3	53.7	52.1	56.9
	図形	5	61.3	55.0	58.6
	関数	5	60.3	58.5	64.4
	資料の活用	2	46.8	51.9	55.9



数学に関する「生徒質問紙」



成果と課題
 すべての領域で「生きる力を育む」という観点のもと、数学を勉強する目的は「順番に考える力」をつけることと伝え続けてきた。そのために、一つの単元が一つの物語になるように指導計画をたて、公式や決まりの必然性を見出させるような授業を展開してきた。その成果が図形領域の正答率であったり、質問紙70の結果につながったと考える。課題は質問紙67の「普段の生活に数学を活用できないか」という問いの肯定的な回答がまだまだ低いという点である。この点が改善されれば、B問題の関数領域の正答率などにも良い影響を与えたと考えられる。

今後の取組
 「資料の活用」の領域は、カリキュラムの編成上各学年でスパイラル学習する編成にはなっていないため、学期末に復習の時間をとるなどの工夫が必要である。また、問題解決型の課題に取り組むことによって、普段の生活に数学が活用できることやB問題で問われる思考力・判断力・表現力・読解力などの力が総合的に育まれるものと考えられる。ただ、授業時間は限られているため、このような課題解決に取り組む時間と基礎基本の定着にかける時間をバランスよく取り組んでいくことが必要であると考える。